



J-BILAT 月刊ニュースレター
第11号 2011年2月

J-BILAT Newsletter
No.11 February 2011



J-BILAT 月刊ニュースレター 第11号 (2011年2月)

目次 (Contents)

- 1 解説コーナー EU2020 と イノベーションユニオン スコアボード 2010
- 2 ニュース (News)
 - 2.1 次期研究枠組みに関するグリーンペーパーとパブリックコメント募集
先月の催し
 - 2.2 CONCERT-Japanプロジェクト キックオフミーティング報告
今後の関連する催し
 - 2.3 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ (同時開催: EURASIAPAC セミナー)
 - 2.4 新エネルギーWeek 2011 特別講演
 - 2.5 第3回 日・バルト・セミナー ～ボーダーレスな科学技術～
 - 2.6 その他、関連する今後の催しのリスト
- 3 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介
その11: FUTONプロジェクト
- 4 FP7関連の話題について日本語で書かれた文献紹介
その7: 戦略的エネルギー技術計画 (SET Plan) 関連文献
- 5 公募情報
 - 5.1 日本からの応募が可能なFP7公募
- 6 プロジェクトデータベースへの登録のお願い
- 7 欧州連合加盟国紹介 その6 オランダ王国



1. EU2020 と イノベーションユニオン スコアボード 2010

欧州連合は2010年に EU2020 と題した新経済成長戦略を以下の優先項目を掲げて発表し、これからの10年になされるべきことを具体的に示しました。

賢い成長 (Smart growth)
持続的成長 (Sustainable growth)
包括的成長 (Inclusive growth)
経済危機からの脱出 (Exiting the crisis)

この為に、以下の5つのテーマが数値目標と共に示されています。

雇用

20から64歳人口の75%を雇用

研究開発

「3%」：EUのGDPの3%を研究開発やイノベーションに支出すること（現在は2%程度）

気候変動とエネルギー

「20/20/20」：温室効果ガスの1990年比20%（京都議定書以降の国際的合意が形成されれば30%）削減、最終エネルギー消費の内、再生可能エネルギーの占める割合を20%に引き上げ、エネルギー効率を20%改善

教育

学校の中途退学者の割合を10%以下に、また30～34歳の人口の内、少なくとも40%が高等教育過程を終了しているようにすること

貧困や社会的排除

貧困や社会的排除の危険に晒されている人を少なくとも2000万人減らす

更に、これらの達成のために以下の7つのイニシアチブが定められています。

賢い成長 (Smart growth)のために

- ◆ 欧州のためのデジタル基本方針 (Digital agenda for Europe)
- ◆ イノベーション連合 (Innovation Union)
- ◆ 自由に移動する若者 (Youth on the move)

持続的成長 (Sustainable growth)のために

- ◆ 省資源の欧州Resource efficient Europe
- ◆ グローバリゼーション時代に立ち向かうための産業政策 (An industrial policy for the globalisation era)

包括的成長 (Inclusive growth)のために

- ◆ 新たな技能と雇用のための基本方針 (An agenda for new skills and jobs)
- ◆ 貧困対策のための欧州基盤 (European platform against poverty)

EU2020:

3つの成長課題

5つのテーマと数値目標

7つのイニシアチブ

100億ユーロ

以上の7つのイニシアチブの内、特にイノベーション連合と最近発表されたスコアボードについて簡単にまとめます。

イノベーション連合 (Innovation Union)

高齢化社会とグローバルゼーションによる競争激化の中で経済成長を維持し、雇用を創出するためには益々イノベーションが重要だと認識され、日本やアメリカに比べ研究開発への支出が少ないことへの危機感から、イノベーションへの支出増大によるアイデアの商品やサービスへの変換、それによる上記目的達成のために、最重要イニシアチブの一つとして策定されました。この下には、例えば

- ❖ 2014年までの欧州研究領域 (European Research Area; ERA) の完成
- ❖ 国際協力の促進、特に引き続き研究開発プログラムを第三国に開放し、お互いのプログラムの相互利用など、対等な条件の確保に努める

など、30以上の行動項目が挙げられています。詳細は以下のサイトを参考にしてください。

<http://ec.europa.eu/research/innovation-union/>

なお、イノベーションユニオンには以下の Facebook ページも存在し、フォローすることにより逐次情報が得られます。

<http://www.facebook.com/innovation.union>

イノベーション連合スコアボード 2010

さて、そのイノベーション連合イニシアチブのもと、2月1日に2010年のスコアボードが発表されました。これは、2001年から European Innovation Scoreboard として発表されてきたものが、イノベーション連合のイニシアチブの下で新たなスコアボードとして名前を変えて出されたものです。いくつか内容をご紹介しますが、以下のサイトから全情報を得ることが出来ます。

<http://www.proinno-europe.eu/>

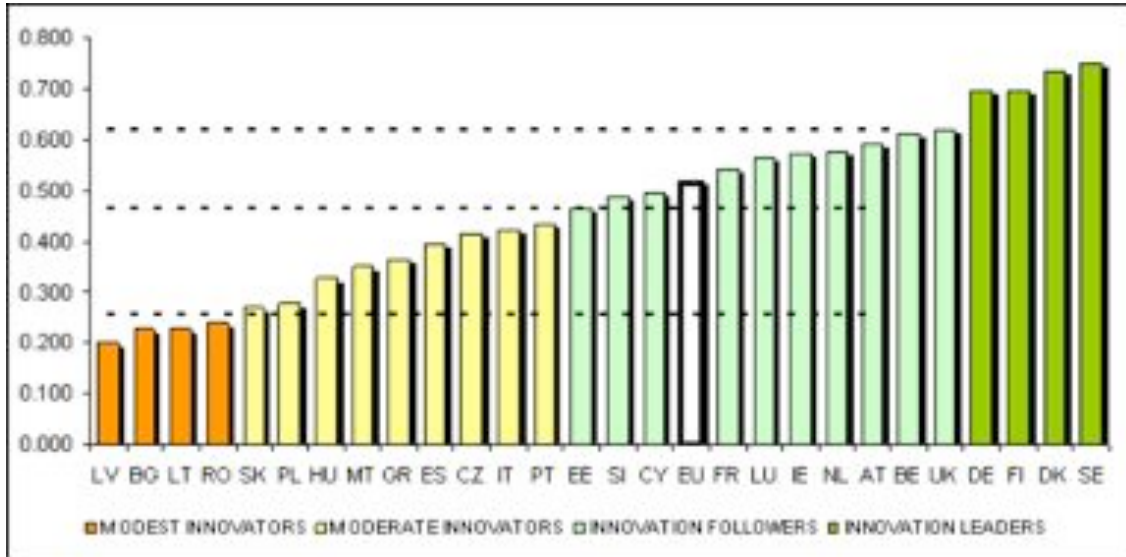
以下、内容のいくつかをご紹介します。(グラフその他はすべて本レポートより引用)

1. EU加盟国のイノベーションパフォーマンス

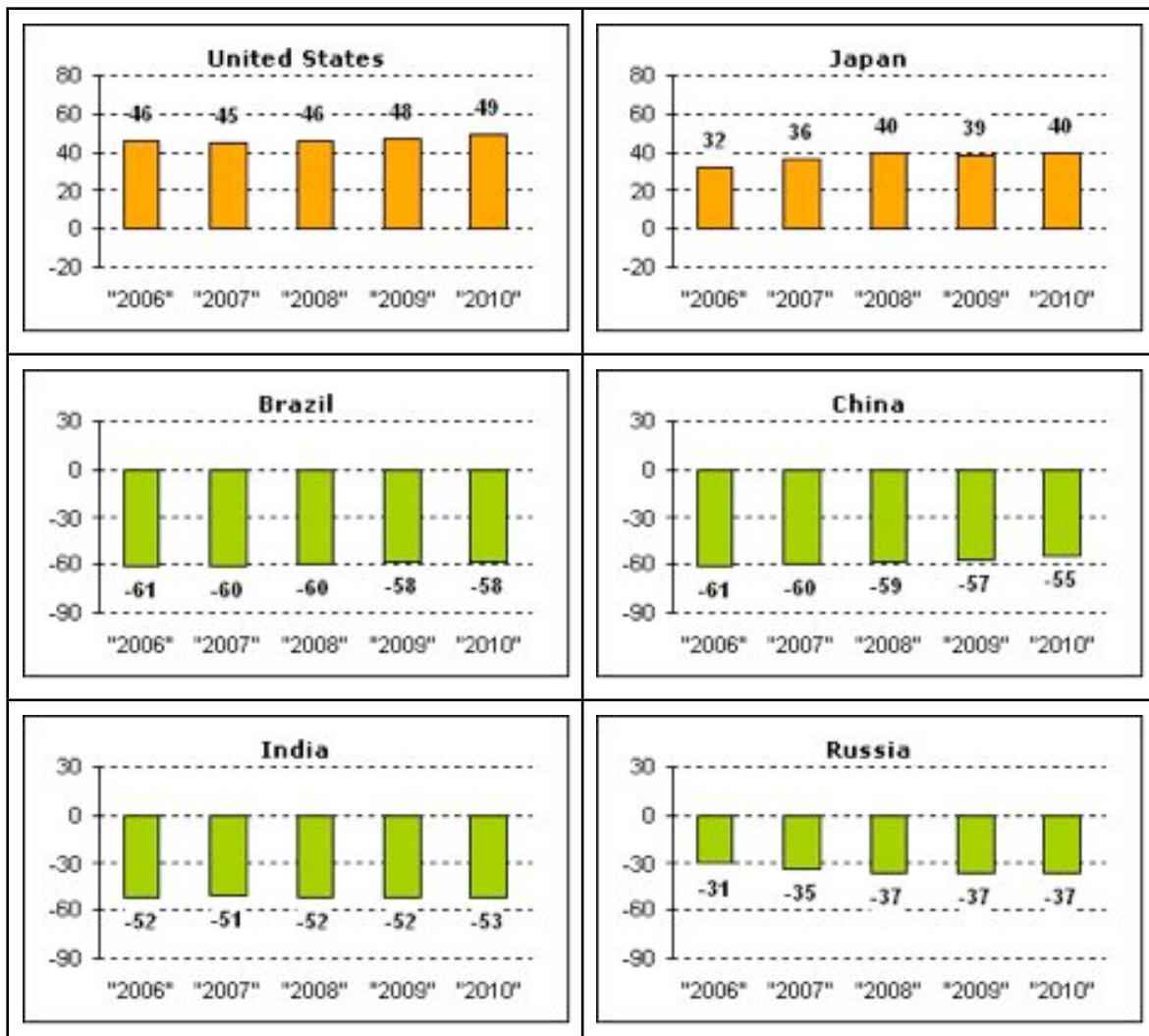
次ページにスコアの概要図のみ掲載します。縦軸は、中小企業の内、自力でイノベーションの出来るものの割合など 24 の指標につき、最低を0、最高を1として複合指標を計算したものです。データが取られた年度により、2010年の平均パフォーマンスは各指標の2008～2009年の値に由っており、ごく最近取られた政策や経済危機の影響は完全には反映されていません。スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ドイツがリードをしていると分析されています。複合指標の計算方法や、各グループ内での成長度合いの差などについては、上記サイトからダウンロード出来る元レポートを御覧ください。



EU Member States' innovation performance



EU27 Innovation performance compared to main competitors

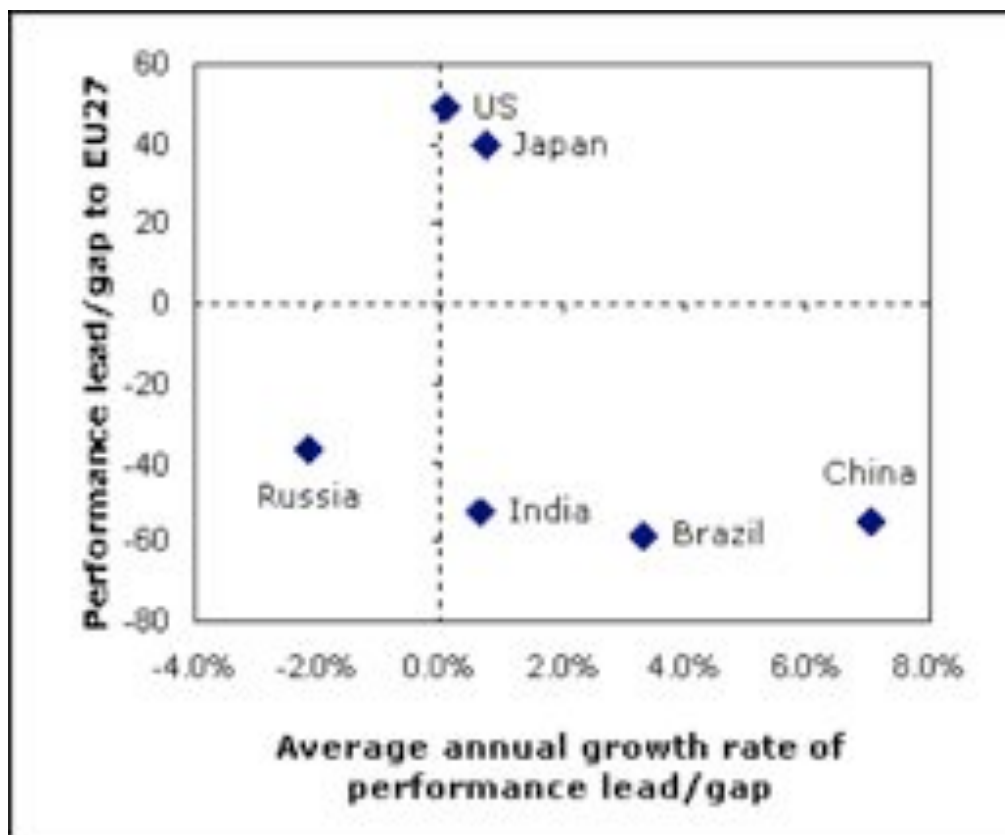


2. 国際比較

前ページの二つ目のグラフは EU 域外の国との比較です。域内に比べ、得られるデータが少ないことから、ここでの比較には公的及び民間の研究開発投資の GDP に占める割合など、12の指標のみが使われています。縦軸は EU 平均と対象国の指標の差の百分率であり、例えば2010年の日本は EU 平均に比べ40%良いパフォーマンスを示していると読みます。

元レポートでは、EUに比べ日本が特に優位に立っているのは産業界のR&D投資で、年々差を広げつつあるが、論文の引用数や知識集約型サービスの輸出に於いてはEUが優っていると分析されています。

国際比較をもう少し動的な観点から整理したのが以下のグラフです。これからは、中国とブラジルが急速にEUに追いつきつつあること、アメリカ及び日本とEUの差は縮まっていないことなどが読み取れます。



2. ニュース (News)

2.1 次期研究枠組みに関するグリーンペーパーとパブリックコメント募集

欧州委員会から次期研究枠組みに関するグリーンペーパーが出され、次期計画策定のためのパブリックコメントが求められています。5月20日まで、オンライン調査やブログ等の方法で、意見を提出することが可能ですのでお知らせいたします。グリーンペーパーのダウンロード、コメントの提出方法の詳細については以下を御覧ください。

http://ec.europa.eu/research/csfr/index_en.cfm

目玉は、これまで欧州委員会 研究総局 (DG RTD) の管轄下であった FP7 と、企業産業総局 (DG ENTR) が管轄していたより市場化に近い部分を支援する枠組み Competitiveness and Innovation Framework Programme (CIP) のうちのイノベーション部分を統一する方向で進んでいることです。J-BILAT でも、今後の動きに注目していきたいと思います。

先月の催し

2.2 特別寄稿 CONCERT-Japanプロジェクト キックオフミーティング報告

先月号で発足をお伝えした日本機関も参加する新たなプロジェクト、CONCERT-Japan の参加機関の一つである科学技術振興機構の 小林 治 氏 (国際科学技術部 調査役) より、プロジェクトの立ち上げと今後の活動予定に付いて、以下のご寄稿を頂きましたので掲載いたします。



本ニュースレター先月号にても報告されておりますが、去る平成23年1月17日 (月)、18日 (火) にトルコはイスタンブールの「ホテル・ニッポン」において「CONCERT-Japanプロジェクト」のキックオフミーティングが開催されました。

CONCERT-Japan (**C**onnecting and **C**oordinating **E**uropean **R**esearch and **T**echnology Development with **J**apan)は、欧州における第7次研究枠組み計画 (Framework Programme 7: FP7) の「Work Programme 2010 CAPACITIES PART7 Activities of International Cooperation」事業の趣旨に基づき採択され、EUの資金援助を得て2011年1月から36ヶ月間にわたって次の活動を行うこととしています。

すなわち、EU加盟国・準加盟国のうち、トルコ科学技術研究評議会(TUBITAK)をコーディネーターとして、トルコ、フランス、ドイツ、ハンガリー、イタリア、ノルウェー、スペイン及びスイスの8カ国10機関と日本の文部科学省 (MEXT)、日本学術振興会 (JSPS) 及び科学技術振興機構 (JST) がコンソーシアムを形成し、

- 1) 既存の日・EU間の科学技術協力プログラムについての情報収集、
- 2) その情報分析に基づく、日・EU間の科技協力についての戦略立案、
- 3) その戦略に基づく、パイロットジョイントコール (試験的共同ファンディング等) の実施を通じて、日・EU間の科学技術協力の理解・強化を図るものです。

今回のキックオフミーティングにおいては、参加13機関が初めて一堂に会し、右目的を達成すべく36ヶ月の事業実施期間中に行われる6つのワークパッケージ (WP) について、それぞれの担当リード機関を中心としての検討がおこなわれました。

- ・ WP1：政府間での科学技術情報やイノベーション政策等に関する情報交換・分析
- ・ WP2：テーマ設定・制度設計 (WP1で集めた情報を基に、WP3でパイロットジョイントコールをするためのテーマや制度設計などを実施。)
- ・ WP3：試験的共同ファンド公募の準備、実施等
- ・ WP4：ジョイントコールを実施するための検討 (WP3で実施したパイロットコールの結果を踏まえた計画の見直し等)
- ・ WP5：CONCERT-Japanの広報、周知展開
- ・ WP6：全工程の管理マネジメント



写真提供：JST



写真提供：JST

これらを受け、当面の予定として、WP1の枠組みにおいて、6月を目処に日本において、進捗及び方針を確認、検討するためのCONCERT-Japanメンバー間会議が日本側メンバー (MEXT、JST) の主催により開催される予定であり、7月にはハンガリーにおいて、メンバー外ではあるが本プロジェクトの成果に賛同し、パイロットジョイントコールでの協力機関となりうる欧州各機関を交えた情報交換会議が予定されています。

今後の関連する催し

2.3 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ（同時開催：EURASIAPAC セミナー）

第10号でも予告しましたが、J-BILAT では、今年第一回目のワークショップとして、情報通信（ICT）分野での日欧間の研究協力をテーマに開催します。昨年より一歩進んで詳細な仕組みと事例報告に加え、参加者を交えた議論により連携強化の可能性を探ります。今回は欧州委員会関係者のご講演や関連分野でも使えるマリーキュリープログラムや欧州研究評議会（ERC）による助成の紹介、在日欧州研究者の活用などのテーマに沿った議論も予定しております。ご参加を歓迎致します。

趣旨：

2009年11月に日本とEUは科学技術協力協定に署名し、今後の批准プロセスを経て日欧間の研究協力の一層の強化が期待されている。J-BILATプロジェクトでは、日・EUの研究協力に関する有益な情報を発信しているが、活動の一環として 第1回成功事例ワークショップを開催する。情報通信（ICT）分野での日欧間の研究協力について、詳細な仕組みと事例報告に加え、参加者を交えた議論により連携強化の可能性を探る。また、関連分野で使えるマリーキュリープログラムや欧州研究評議会（ERC）による助成の紹介も行う。

後援：EURASIAPAC プロジェクト

対象：公的研究機関及び企業の研究者、研究担当マネージャー、助成団体関係者等30-50名

日時：2011年3月15日（火） 13:30 ~ 16:30 (受付開始13:00)

会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京）6階中ホール1

交通案内等の詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nomura-nihonbashi.com/conference/index.html>

使用言語：日本語または英語、同時通訳有り

参加費及び参加登録：

参加は無料ですが、事前登録をお願いしています。オンライン登録

（プロジェクトマネージャー 市岡利康、[Email : toshiyasu.ichioka@eu-japan.gr.jp](mailto:toshiyasu.ichioka@eu-japan.gr.jp)）

最新版のプログラムは以下のウェブサイトに随時掲載します。ウェブサイトのオンライン登録、もしくは氏名（ふりがな及びアルファベット）、所属（和名・英名）、役職（和名・英名）、電話番号、メールアドレス、レセプション参加の有無をご明記の上、以下の担当者までお申込み下さい。

http://www.j-bilat.eu/seminar/BPSW_1

また、同時開催の EURASIAPAC セミナーに関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://eurasiapac-fp7.eu/2011/01/12/agenda-3rd-asia-pacific-workshop-in-japan/>

2.4 新エネルギーWeek 2011 特別講演

リード エグジビション ジャパン 株式会社の主催により、2011年3月2日（水）～4日（金）の3日間、東京ビッグサイトにて「新エネルギーWeek 2011」が開催されます。以下の7つの催しから構成され、各展が日本最大、世界最大という大規模な展示会 ということで、関連分野の最新製品・サービスが一堂に出展されます。

「第7回 国際水素・燃料電池展 ～ FC EXPO ～」

「第4回 国際太陽電池展 ～ PV EXPO ～」

「第2回 国際二次電池展 ～バッテリー ジャパン～」

「第2回 太陽光発電システム施工展 ～PVシステム EXPO～」

「第2回 新エネルギー向け 量産 試作 加工技術展」

「第1回 エコハウス&エコビルディングEXPO」

「第1回 国際 スマートグリッドEXPO」

この中の特別講演として、この時期に来日予定の欧州委員会 Agustín Escardino Malva 氏による以下の講演が予定されています。

「欧州における戦略的エネルギー技術計画」

Escardino 氏は、研究総局でエネルギー分野を受け持つ K 局の「新エネルギー・再生可能エネルギー源」課の課長補佐を務めておられ、以前はバレンシアにある社長兼最高経営責任者（CEO）であったり、EU の水素・燃料電池のジョイントテクノロジーイニシアチブ（JTI）の設定に尽力されたりしておられました。

催しの詳細は以下ウェブサイトをご覧下さい。

<http://www.smartgridexpo.jp/ja/Technical-Conference/Technical-Conference-Program/EN-S/>

以下の FP7 関係の文献紹介の項で関連する文書を紹介していますが、戦略的エネルギー技術計画（Strategic Energy Technology Plan; SET Plan）は気候変動対策や欧州企業の競争力強化を見据え、エネルギーの安全供給、特に欧州におけるエネルギー持続可能なエネルギーの普及を目指して欧州委員会が2007年に提唱したものです。

2.5 第3回 日・バルト・セミナー ～ボーダーレスな科学技術～

2009年から毎年開催されている日・バルトセミナーが今年も開催されます。第一回の外交、第二回の経済に続き、今年は科学・技術がテーマとして取り上げられ、外務省と科学技術振興機構 (JST) の共催をされます。1990年代初めの再独立、三国揃っての EU 加盟とその後の急速な発展、経済危機が科学・技術に与えた影響等、余り知られていないながら興味深い地域だと思えます。内容としては、人材交流や産学連携が主となるようです。

日時： 2011年3月2日 (水曜日) 午後1時～午後6時

主催： 外務省及び科学技術振興機構 (JST)

場所： JSTホール(科学技術振興機構 (JST)東京本部 地下1階)

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ地下1階

電話番号：03-5214-7375

地図 URL： <http://www.jst.go.jp/koutsu.html>

使用言語：英語・日本語 (同時通訳付き)

参加をご希望の方は、氏名、所属先名・役職名、連絡先 (住所・電話番号・メール アドレス) を、件名「3月2日, 日・バルトセミナー参加希望」と明記の上, kokusaik@jst.go.jp宛にお送りください。参加費は無料です。予定されている講演者等の詳細は、以下のウェブサイトを御覧ください。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/event/j-baltics.html>

2.6 その他、関連する今後の催しのリスト

タイトル	日付	場所	内容、ウェブサイト等
Innovation in Healthcare: from Research to Market	30-31 March 2011	Brussels	http://ec.europa.eu/research/health/events-04_en.html
Scientix European Conference	6-8 May 2011	Brussels	(On science education projects in Europe) http://www.scientix.eu/web/guest/conference
Future Internet Week	16-19 May 2011	Budapest	http://www.fi-budapest.eu/
ICT Proposer's Day 2011	19-20 May 2011	Budapest	http://ec.europa.eu/information_society/events/ictproposersday/2011/index_en.htm
Internet of Things (IoT) week	6-10 June 2011		

3. 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介その11

FUTON プロジェクト



プロジェクト名	Fibre optic networks for distributed and extendible heterogeneous radio architectures
短縮名	FUTON
契約番号	215533
プロジェクト開始日	2008年1月1日
期間	33 ヶ月
助成金	6,580,000 ユーロ
ウェブサイト	http://www.ict-futon.eu/

第11回は、情報通信（ICT）分野のプロジェクト、Fibre optic networks for distributed and extendible heterogeneous radio architectures（拡張可能・分散型のヘテロジニアス無線アーキテクチャ実現のための光ファイバネットワークに関する研究：参考訳）、FUTONプロジェクトを取り上げます。コーディネータはポルトガルのノキア シーメンス ネットワークス ポルトガル (Nokia Siemens Networks Portugal SA)で、以下が参加機関のリストです。

参加機関名	国名
Nokia Siemens Networks Portugal SA ノキア シーメンス ネットワークス ポルトガル	ポルトガル
Portugal Telecom Inovação SA	ポルトガル
Wavecom Solucoes Radio Limitada	ポルトガル
Instituto de Telecomunicações	ポルトガル
Acorde Technologies S.A.	スペイン
Commissariat à l'Énergie Atomique et aux Énergies Alternatives	フランス
Alcatel Thales III V Lab アルカテル・タレス III V 研究所	フランス
Hellenic Telecommunications Organization S.A. - OTE AE (Organismos Tilepikoinonion Tis Ellados OTE AE)	ギリシャ
University of Patras パトラ大学	ギリシャ
Sigint Solutions Ltd	キプロス
Nokia Siemens Networks GmbH & Co. Kg ノキア シーメンス ネットワークス	ドイツ
Technische Universitaet Dresden ドレスデン工科大学	ドイツ

参加機関名	国名
Aalborg Universitet オールボー大学	デンマーク
Teknologian Tutkimuskeskus VTT 国立技術研究センター	フィンランド
University of Kent ケント大学	イギリス
Vivo SA	ブラジル
National Institute of Information and Communications Technology 情報通信研究機構	日本

日本からの参加者は、情報通信研究機構（NICT）次世代ネットワーク研究センター 先端ICTデバイスグループ 川西 哲也 研究員のグループでした。以下、プロジェクト参加について川西氏からご寄稿を頂いた文章を掲載いたします。

第4世代（4G）のモバイル通信環境整備のための研究開発が進む中、FUTON プロジェクトの目指していたのは以下のようなことでした。

- 離れた無線基地局とそれを繋ぐ光ファイバー網からなる基盤からの無線信号をシームレスに高速処理できる柔軟なシステムの開発と有用性の確認
- 異なるシステム間の無線信号の有効利用と統一
- FUTON プロジェクトのワイヤレスコミュニケーションシステムの評価

日本から参加する動機付けとしては欧州の動向調査、ニーズの掘り起こし、研究パートナーとのマッチングなどがあげられます。また、IECなどでの国際標準化に関して共通の目的を持つ欧州各国の研究機関との連携を深めることが出来たというのもメリットの一つです。日本の研究機関には予算的な助成が基本的にはありません。（日本からの会議参加旅費などはプロポーザルの中で説明しておけば、要求することが出来るようです。）欧州側からはプロジェクトへのより大きな貢献も期待されましたが、予算措置がない以上、貢献は抑制的になることをあらかじめ了解して頂いて参加するという形となりました。研究計画の構成で印象的だったのはあえて複数の技術の候補を立てて、どれを選択していくかを検討していくという点です。NICTからは光信号発生部分の1つを担当し、また、その技術を使った光デバイスの精密計測技術についての検討も行いました。後者はNICTで電波天文向け基準信号発生や通信用デバイスの品質保証のための特性評価・検査技術として開発を進めているもので、無線信号発生用計測技術としてIECでの国際標準化を目指しており、プロジェクトメンバーからも標準化活動に対して協力を受けています。

NICTにおける関連研究の内容につきましては、以下のリンクをご参照ください。

<http://www.nict.go.jp/publication/NICT-News/0910/03.html>

<http://www2.nict.go.jp/pub/whatsnew/press/h22/101115/101115.html>

4. FP7関連の話題について日本語で書かれた文献紹介 その7: 戦略的エネルギー技術計画 (SET Plan) 関連文献

戦略的エネルギー技術計画 (Strategic Energy Technology Plan; SET Plan) は気候変動対策や欧州企業の競争力強化を見据え、エネルギーの安全供給、持続可能なエネルギーの普及と組織的なエネルギー技術の開発を目指して欧州委員会が2007年に提唱したものです。これに関し、以下のような文献が出ていますのでまとめてご紹介いたします。

NEDO 海外レポート 1018 号

「低炭素社会にむけて(EU) -欧州の戦略的エネルギー技術計画-」

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1018/1018-06.pdf>

NEDO 海外レポート 1033 号

「欧州戦略的エネルギー技術(SET)計画 -提言から約1年、改めてその意義を説く-」

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1033/1033-16.pdf>

JETRO ユーロトレンド 2010.2

「EUの戦略的エネルギー技術計画 (SET Plan) の実施のための政策提言『低炭素エネルギー 技術開発への投資』の概要」

http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000258/eu_setplan.pdf

また、SET Plan の全貌や関連する日本語以外の文献については、欧州委員会の本サイトを御覧ください。

http://ec.europa.eu/energy/technology/set_plan/set_plan_en.htm

なお、上記レポート中にも記載がありますが、SET Plan の実現を、エネルギー研究機関間の共同研究開発プロジェクトによって促進しようという目的で、欧州エネルギー研究同盟 (European Energy Research Alliance; EERA) が設立されています (以下ウェブサイト参照)。

<http://www.eera-set.eu/>

原則として、名を連ねるだけでなく、少なくとも年に4回の参加機関トップ会合他にきちんと参加し、同盟の活動に積極的に貢献できるならば、非欧州の機関も参加が可能だそうです。



5. 公募情報

ニュースレター発行時点での最新の情報をお送りしております。
FP7 に関する日欧共同公募は現在出されておられません。

5.1 日本からの応募が可能なFP7公募

この他に、以下のFP7の公募が利用できます（毎号随時アップデートしております）。緑色のものは、特に日本からの参加をターゲットにした部分のある公募や日本からの参加者・機関に助成金の出る可能性のあるもの、ピンクのものは前号から新たに付け加わったものです。現時点では応募可能な公募の数が少ないですが、来月よりマリーキュリーの個人向けの物等、また順次公募が出されていきますので、引き続きご注目ください。

プログラム	公募番号	応募締切	含まれるテーマ	Comments
Capacities	FP7- INCO-2011-7	15 March 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Activities of International Cooperation	Strengthening European research facilities in third countries - INCO-LAB 日本にある欧州の機関との共同研究所の利用を欧州の他の国にも広げるもの。
Capacities	FP7- INCO-2011-6	15 March 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Activities of International Cooperation	Reinforcing Cooperation with Europe's neighbours in the context of the ERA
Cooperation	FP7- ENERGY-2011- -2	07 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Energy	See also SET-Plan (Technology Roadmaps and Implementation Plans of the European Industrial Initiatives)
Cooperation	FP7- ICT-2011-C	12 March 2013 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_15 STREP and CSA 25 September 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_14 STREP and CSA 10 April 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_13 STREP and CSA 25 October 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_12 STREP and CSA 17 May 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_11 STREP and CSA	Information and Communication Technologies	

プログラム	公募番号	応募締切	含まれるテーマ	Comments
Cooperation	FP7-SST-CIVITAS-2011-MOVE	12 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Transport Sustainable Surface Transport – MOVE	2011年2月17日にFAQがアップデートされています。
Cooperation	FP7-ICT-2011-SME-DCL	First stage (short proposals): 28 April 2011, at 17:00.00 Brussels local time Second stage (full proposals): 28 September 2011, at 17:00.00 Brussels local time	Information and Communication Technologies	SME Initiative on Digital Content and Languages (日本からの参加がどの程度奨励されているかは現時点では不明)
Ideas	ERC-2011-AdG_20110310	10 March 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	ERC	Life Sciences (Panels: LS1 – LS9) 上級研究者向け
Ideas	ERC-2011-AdG_20110406	6 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	ERC	Social Sciences & Humanities (Panels: SH1 – SH6) 上級研究者向け
People	FP7-PEOPLE-2011-ITN	26 January 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie-Curie Actions	Marie Curie Initial Training Networks 2011 (ITN) 大学院生レベルを対象にしたもの。個人ではなく機関が応募。
People	FP7-PEOPLE-2011-IRSES	17 March 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie International Research Staff Exchange Scheme (IRSES)	
People	FP7-PEOPLE-2011-CIG	08 March 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie career integration grants	
Euratom	FP7-Fission-2011	7 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Nuclear Fission and Radiation Protection	

何かご質問等ありましたら、J-BILATにお知らせくだされば、できる範囲でお答え致します。また、ご応募の後に採択された場合など、ぜひご参加に至る過程や実際のプロジェクトの様子など、体験をお寄せいただければと思います。次年度以降のセミナーやワークショップで、共有したいと思います。

6. プロジェクトデータベースへの登録のお願い

プロジェクトに関する情報をお送りするために、データベースへの登録をお願いしております。プロジェクトウェブサイトからの登録に加え、メールやファックスにて、以下の情報をお送りいただいても結構です。

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

Registration for the project database can be done through the following website, or by sending the information listed below to the project manager.

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

- Title (Mr. Ms. Dr. Prof.)
- Surname 姓
- Name 名前
- Position 役職
- Affiliation 所属
- Mailing address 所属先住所 (optional)
- E-mail address メールアドレス
- Telephone No. 電話 (optional)
- Fax No. ファックス (optional)
- Area of interest (multiple choice from the following list:

Health; food, agriculture and biotechnology; information and communication technologies (ICT); nanosciences, nanotechnologies, materials and new production technologies; energy; environment (including climate change); transport (including aeronautics); socio-economic sciences and the humanities; security; space; other “ ”

興味のある分野（複数可）

保健・食料・農業・漁業・バイオテクノロジー・情報通信技術・ナノ科学及びナノテクノロジー・材料及び新生産技術・エネルギー（原子力を除く）・環境（気候変動を含む）・運輸（航空を含む）・社会経済科学及び人文科学・宇宙・安全・原子力・その他 「 」

7. 欧州連合加盟国紹介 その6 オランダ王国

欧州連合加盟国の特に研究開発に関し、順次簡単な紹介をしています。

漢字表記：和蘭、阿蘭陀、和蘭陀（略称 蘭）
面積：41,543 平方キロ
主要都市：アムステルダム（首都）、ロッテルダム、デン・ハーグ
人口：1672万人（2009）
公用語：オランダ語、フリジア語（フリースラント州）
宗教：無宗教 42%、カトリック 30%、プロテスタント 19% 他
名目GDP：794.8 bn USD (2009) 産業構成GDP: 農業: 1.6% 工業: 23.6% サービス業: 74.9%
科学・技術： 国全体の研究開発支出（Gross Domestic Expenditure on R&D ; GERD）：GDPの1.71% (2007) 研究開発費の出所 政府 36.8% 民間 48.8%



オランダの科学・技術は、教育・文化・科学省 (OCW)及びその管轄下のオランダ科学研究機構 (NWO)、またオランダ特許庁 (EVD) と経済省(EZ) 下でイノベーションを担当していた SenterNovem の合併によって誕生した NL Agency により支援されている。

<http://www.nwo.nl/>
<http://www.agentschapnl.nl/>

フィリップスやロイヤル・ダッチ・シェルといった大企業の存在に関わらず、GDP に占める研究開発費の内、民間からの出資分が比較的少ないこともオランダの特徴と言える。

(出典: CIA Factbook, Wikipedia, OECD他)

日本におけるFP7情報サービス事業(J-BILAT)

事業名	BILAT in Japan	省略形	J-BILAT
開始日	2010年1月1日	契約書番号	244310
期間	36 ヶ月	予算	612,090 EUR (内 FP7 助成金が500,000 EUR)

本ニュースレターに含まれるFP7関連その他の情報は得られた時点で最新のものを正確にお伝えするよう努めておりますが、意見等は関係機関の公式見解を表すものではなく、また本文に EU の公式文書その他の日本語訳が含まれる場合にも、原典と同等の内容の正当性を保証するものではありません。本ニュースレターに関するご意見・ご要望・配信の停止等のお問い合わせは、右記の担当 市岡までお寄せ下さい。

Fabrizio Mura
プロジェクト代表
E-mail: fabrizio.mura [at] eu-japan.gr.jp
市岡 利康
プロジェクトマネジャー(J-BILAT担当)
E-mail: toshiyasu.ichioka [at] eu-japan.gr.jp
日欧産業協力センター
〒102-0082 東京都千代田区一番町13-3 ラウンドクロス一番町4階
Tel.: +81 - (0)3-3221-6161
Fax: +81 - (0)3-3221-6226



J-BILAT is on twitter

© 日欧産業協力センター
EU-Japan Centre for Industrial Cooperation
編集:市岡利康